

部活動の安全継続パッケージ

—最後のクライマックスをとめないために—

- **新年度、高校生の集団感染は15校161人。**
- **部活動内での感染が疑われる事例は13校16件、84人と増加傾向。**
- **全道大会等による移動・交流の拡大に備え、二層の警戒が必要。**
- **高体連、高野連等関係団体と連携し、生徒、学校、地域の守りを固める。**

I. 「個」の守り=感染不安を一人で抱え込まない。

◆全道大会選手等を対象としたエントリーチェックの実施

校長・学校保健委が体温等記録を確認し、適切な受診（PCR検査等）を勧奨。

◆同居家族への「健康観察と行動変容」の協力依頼。

II. 「チーム」の守り=学校ぐるみの協調指導体制の確立

◆「部活動顧問会議の開催」

- ・体温等管理と活動の厳選確認、マスク・会話・食事等ルールの再徹底。
- ・全校生徒・教職員・指導者一丸となった協調指導体制の確立。

III. 「社会」の守り=オール北海道の安全応援

◆安全活動宣誓サイン入ボードの掲出 **Keep on Shining! 夢をあきらめない**

- ・高体連・高野連・応援アンバサダー等と部活主将がフェアプレイ精神に基づくガイドライン遵守に署名。

◆無観客開催・オンライン観戦、衛生管理の徹底。

◆PTA・後援会や企業等の安全確保へのサポートを喚起。

(みんなの誓いのメッセージを書いてください。)

Keep on Shining



宣誓！

私たちは感染を防ぐための ルールを守ります



私も皆さんのクライマックスを応援します。
北海道日本ハムファイターズ スペシャルアドバイザー
田中賢介

2020年、甲子園やインターハイ、高文連全国大会など、部活動に打ち込んだ生徒たちにとって、最高の舞台が失われました。

2021年度は、最新の知見に基づく感染予防ガイドラインのもと、再び悔しい思いをしなくて済むよう、生徒たち、指導者、団体のみんなで大会運営や練習等の活動場面に応じた感染を防ぐ努力を重ねています。

それでも、部活動に起因する集団感染事例が後を絶ちません。
感染力の強い変異株への置き換わりが進むとともに、活動自粛の疲れから、マスクの着用や会話など、基本ルールの遵守に緩みが見られるとの声も聞こえます。

私たち一人ひとりが 最高のクライマックスを迎えられるよう、フェアプレイ精神をもって、健康観察やマスクの着用、会話・食事の注意事項など、感染を防ぐためのルールを遵守することを誓います。

北海道教育委員会・北海道高等学校長協会
北海道高等学校体育連盟・北海道高等学校文化連盟・北海道高等学校野球連盟
北海道高等学校定時制通信制体育連盟